

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際生化学・分子生物学連合
	英	International Union of Biochemistry and Molecular Biology (略称 : IUBMB)
	団体 HP (URL)	http://iubmb.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 )
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		国際生化学・分子生物学連合 (IUBMB) は、所属する世界の国々(現在 79 か国)に生化学分子生物学的科学研究を広めて、各国の若手研究者を教育、育成することを大きな目標としている。IUBMB に参画する 4 つの大きな地域 (南北アメリカ、アジア・オセアニア、ヨーロッパ、アフリカ) で、3 年に 1 回 Congress が開催される。2018 年 6 月に韓国ソウル市で開催された Congress では、最先端の生命科学の研究成果が紹介されるとともに、ノーベル賞学者による教育的な講演も行われた。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		SDGs の一つである「教育」に関して、若手研究者の旅費等を IUBMB が負担して、Congress や各地域での総会 (アジア・オセアニアで FAOBMB (Federation of Asia Oceania Biochemistry and Molecular Biology) に相当) 等への参加を促すプログラムを設けている。各会議では Education Workshop が設けられて、世界各地での学術推進と均衡化を目指している。また、生化学命名法や、酵素を含む種々の命名法を制定しており、それらのいくつかは、国際純正・応用化学連合と共同して策定している。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		2015 年第 23 回 IUBMB Congress に中野明彦 (当時会員、現在連携会員) が Delegate として出席し、次回の Auditor に選ばれた。 2018 年第 24 回 IUBMB Congress に中野明彦が Auditor として出席し、会計監査報告を行った。菊池章 (IUBMB 分科会委員長) と水島昇 (分科会委員) は Delegate として、総会議決に参加した。また、本庶佑、山本雅之 (生化学会会長) はプレナリーレクチャーとして講演を行い、菊池章と水島昇がそれぞれ、「がんシグナル」と「オートファジー」に関する国際シンポジウムを企画した。中野明彦は、次回の 2021 年第 25 回 IUBMB Congress でも Auditor を務めることが決まった。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		IUBMB は 79 もの国が加盟している大きな組織であるが、ほとんど一学会が窓口になっているなか、我が国は学術会議 (=内閣府) が国をあげて、日本人が国際会議の場で活躍できる体制となっている。このために、日本人研究者を IUBMB Congress での講演者として推薦できる、国内の生化学会や分子生物学会との連携がとれるため日本の学協会に有益である、日本に IUBMB 主催の大規模な国際会議 (Congress) を誘致できる等のメリットがある。 日本学術会議が IUBMB の窓口となり、日本生化学会を中心として活動したきたことにより、我が国の学術の国際社会の中でのプレゼンスを示してきた。例えば、3 年に 1 回開催される IUBMB Congress において、「Osamu Hayaishi Lecture」、「Kunio Yagi Lecture」、「Takashi Murachi Lecture」等の日本人研究者が冠となった講演会は Congress における重要な位置づけにある。早石修先生と八木国男先生は、それぞれ 1973 年～1976 年

## 様式第 2 (第12条関係)

	と、1994 年～1997 年に President を務められた。また、本庶佑先生が 2006 年の IUBMB Congress の会頭を務められ、71 か国から 9000 名の参加者による盛大な学術会議を催された。本 Congress では、大隅良典先生がオートファジーに関するプレナリーレクチャーを行われた。これらの実績は、日本学術会議が“Adhering body”として IUBMB と連携しているためになしえたことであり、この国際的に大きな組織に加盟している国だからこそ、研究者は国際会議での発表の場や最先端の研究に触れることができる。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)	IUBMB の“Mission”として、民族、文化、性差、経済状況等の壁を乗り越えるネットワーク形成や、若手研究者がその能力を発揮できるキャリアパスを形成することを掲げている。そのために、教育活動として、生化学教科書、総説雑誌等を開発途上国の学生や教員に無料配布している。また、若手研究者の発表の場として、IUBMB Congress の前日に a Young Scientist Program を設けている。

### 2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	日本では、第 20 回 IUBMB Congress が本庶祐会頭の下、京都で開催された。第 25 回、第 26 回は開催地が決定されており、第 27 回 (2017 年) 以降の Congress を日本で開催する可能性について検討中である。
日本人の役員立候補等の予定について	現在は中野明彦が Auditor として役員に加わっており、次回の総会まで務める予定である。なお、菊池章が 2019～2025 年の FAOBMB President として選出されている。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	上述した通り、第 27 回 (2017 年) 以降の Congress を日本で開催する可能性について、日本生化学会で検討中である。

### 3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2015 年 (開催地: Brazil)、2018 年 (開催地: Korea)、2021 年 (開催地: Portugal) 2024 年は Australia での開催の可能性が高く、2027 年以降の開催地は未定である。
	理事会・役員会等開催状況	総会に合わせて、Ordinary General Assembly が開催される。 2015 年 (開催地: Brazil)、2018 年 (開催地: Korea)、2021 年 (開催地: Portugal)
	各種委員会開催状況	FAOBMB の開催状況は下記の通りである。 2013 年 (開催地: Morocco)、2014 年 (開催地: Taiwan)、2015 年 (開催地: India)、2016 年 (開催地: Philippines)、2017 年 (開催地: Japan)、2018 年 (開催地: Korea)、2019 年 (開催地: Malaysia)、2020 年 (開催地: Sri Lanka)、2021 年 (開催地: New Zealand)
	研究集会・会議等開催状況	IUBMB Conference の開催状況は下記の通りである。 2013 年 (開催地: Morocco)、2016 年 (開催地: Canada)、2017 年 (開催地: Israel)、

## 様式第 2 (第12条関係)

上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<p>2015年第23回 IUBMB Congress に中野明彦 (連携会員) が Auditor として出席し、会計監査役を務めた。</p> <p>2016年第16回 IUBMB Conference に菊池章 (分科会委員長) が出席し、シンポジウムでの発表を行った。</p> <p>2018年第24回 IUBMB Congress に中野明彦が Auditor として出席し、会計監査役を務めた。菊池章 (IUBMB 分科会委員長) と水島昇 (分科会委員) は Delegate として、総会議決に参加した。</p>			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	Auditor	2015～現在	中野明彦	(23期)会員 (24期)連携
		～		( ) 期) 会員・連携
		～		( ) 期) 会員・連携
		～		( ) 期) 会員・連携
		～		( ) 期) 会員・連携
出版物	<p>1 定期的 (年 1 回～12 回) 主な出版物名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• BIOCHEMISTRY AND MOLECULAR BIOLOGY EDUCATION</li> <li>• BIOFACTORS</li> <li>• BIOTECHNOLOGY AND APPLIED BIOCHEMISTRY</li> <li>• IUBMB LIFE</li> <li>• STANDARDS FOR THE DOCTORAL DEGREES IN THE MOLECULAR BIOSCIENCES</li> <li>• TRENDS IN BIOCHEMICAL SCIENCES (ELSEVIER SCIENCES)</li> </ul>			
	<p>2 不定期 (年 2 回程度) 主な出版物名: IUBMB Newsletter</p>			
<p>活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (<a href="https://iubmb.org/activities/annual-reports/">https://iubmb.org/activities/annual-reports/</a>) 本 Website に IUBMB Annual Reports として活動状況が報告されている。</p>				

### 4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第 3 条、4 条、5 条)

国内委員会 (内規 4 条第 3 号)	委員会名	日本学術会議 IUBMB 分科会
	委員長名	菊池章
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>2018年 6月 8日 中野明彦、水島昇、菊池章が、2018年 (平成 30年) 6月 4日～8日に大韓民国ソウル市で開催された第 24回 IUBMB Congress に参加し、6月 8日の IUBMB 全体総会に議決権を有した代表として出席した。IUBMB の運営状況等を審議し、次期 IUBMB 会長に米国 Prof. Alexandra Newton を選出した。また、同日 IUBMB 分科会を開催して、今後も Congress や地域組織の FAOBMB に積極的に参加することについて検討した。</p> <p>2019年 9月 19日 第 1回分科会 第 27回 FAOBMB/第 44回 MSBMB 大会報告、今後の IUBMB Congress</p>

様式第 2 (第12条関係)

		についての審議、2027 年以降の日本での IUBMB Congress 開催についての審議	
内規第 3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する      2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 ( <a href="https://iubmb.org/wpcontent/uploads/sites/2790/2018/08/IUBMB_Statutes_06_06_2018.pdf">https://iubmb.org/wpcontent/uploads/sites/2790/2018/08/IUBMB_Statutes_06_06_2018.pdf</a> )		
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する      2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 ( <a href="https://iubmb.org/about-iubmb/organizations-special-members/">https://iubmb.org/about-iubmb/organizations-special-members/</a> )		
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ア 個々の学術の専門分野における統一のかつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一のかつ世界的な組織を有するもの <input checked="" type="radio"/> ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの		
	10 カ国を超える各国代表会員が加入している <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する      2. 該当しない		
	加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載	(79 ヶ国)	
		・各国代表会員名／国名 IUBMB の Executive member と、FAOBMB、FASBMB、FEBS からの代表を記載します。 Prof. Andrew H. -J. Wang (Taiwan), Prof. Joan J. Guinovart (Spain), Prof. Alexandra Newton (USA), Prof. Jim Davie (Canada), Prof. Francesco Bonomi (Italy), Prof. Zengyi Chang (China), Prof. Ilona Concha Grabinger (Chili), Prof. Janet Macaulay (Australia), Prof. Akira Kikuchi (Japan), Prof. Khalid Fares (Africa), Prof. Václav Pačes (Czech)	